

アクションリサーチ (Action Research) とはなにか — 社会科学の複数の分野をつむぐ 変革志向の実践的研究教育方法として —

日時 2013年3月22日(金) 17時～19時10分
場所 神戸大学六甲台第1キャンパス社会科学系アカデミア館504教室
主催 神戸大学社会科学系教育研究府 (The Kobe University Interfaculty Initiatives in Social Sciences)
高等アクションリサーチ・ユニット (The Advanced Action Research Unit)
協賛 現代経営学研究所 (RIAM)
参加費用 無料
定員 60名

参加申込 参加をご希望の方は、社会科学系教育研究府事務 (kaikei@iiss.kobe-u.ac.jp) 宛てに
3月10日までに電子メールで申し込んでください。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

背景

社会科学系教育研究府は、基礎研究、臨床研究、臨床教育を行い、社会科学系学理と実際の相互作用(インタラクション)によるネットワーク化を実現することを目指し、2012年4月に法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科、経済経営研究所の社会科学系5部局の共同教育研究組織として設立されました。現在、当研究府は、社会科学系分野の学際的理論研究を幅広く行う「社会科学先端リサーチ・ユニット」、産学連携で事業創造に関連した研究を行う「産業創生インキュベーション・ユニット」、臨床型のフィールド研究を行う「高等アクションリサーチ・ユニット」の3つのユニットから構成されています。

高等アクションリサーチ・ユニットは、実務に積極的に関与する臨床型のフィールド研究(アクションリサーチ)を推進するユニットであり、企業や非営利組織が抱える課題について、研究者と実務家の共同研究により課題解決を臨床的に行い研究成果として蓄積することで、理論の実務への適用可能性を高めると共に、理論の応用手法を開発し体系化することや理論研究へフィードバックすることを目的としています。

これまで、アクションリサーチというアプローチは、経営学研究科の一部の教員が、研究、教育に利用してきましたが、経営学領域における統一した概念は無く、また、法学や経済学の領域など社会科学系部局が関わる幅広い領域における横断的な検討は行われてきませんでした。そこで、本セミナーでは、アクションリサーチというアプローチが、社会科学系5部局が関わる領域において、どのような可能性、課題を有するかについて議論を深めたいと考えています。

開催予定プログラム

第1部 経営学におけるアクションリサーチの取り組み —神戸大学での取り組みの発展方向を探る—

神戸大学の経営学分野ではこのアプローチにどのように取り組んでいるかについて報告をし、わが国のみならず、世界的にも最もラディカルにグループダイナミクスやアクションリサーチに取り組む立場に立つ杉万教授に、それらを踏まえた問題提起と批判、改善方法について指摘をいただく。

①総論解説

金井壽宏 (社会科学系教育研究府 教授・府長)

②経営学(管理会計領域)におけるアクションリサーチ

松尾貴巳 (経営学研究科 教授)

③グループダイナミクスにおけるアクションリサーチ

杉万俊夫 (京都大学 大学院 人間・環境学研究科教授)

第2部 パネルディスカッション

杉万俊夫 (京都大学 大学院 人間・環境学研究科教授)

グループダイナミクスの立場

樫村志郎 (法学研究科 教授)

法社会学におけるエスノメソロジーの立場

金井壽宏 (社会科学系教育研究府 教授・府長)

組織開発におけるクリニカルアプローチの立場

松尾貴巳 (経営学研究科 教授)

管理会計システムの導入研究の立場

ここでは、金井が、司会兼パネルとなり、フロアを巻き込んだ議論を展開する予定です。パネリストのご報告は短めにして、パネリスト間のやりとり、パネリストとフロアの皆さんとのやりとりを重んじます。